

家庭環境が幼児の読書能力に及ぼす影響

Effects of home environment on children's reading ability

学籍番号：201221602

氏名：村野 亜子

Ako MURANO

読書能力とは、広義には読書を楽しむ能力である。この能力に関連する概念として、読書のレディネスと想像力が挙げられる。読書のレディネスとは、読書を楽しむことが可能な心理的準備ができ上がった状態にあるということである。想像力とは、目に見えないものを思い浮かべ、想像でつくり出した世界を自分の現実にする力であり、読書を楽しむことは想像力を働かせることであると言われている。このような子どもの読書能力の発達には子どもに対する保護者の行動などの家庭環境が重要であるが、さまざまな種類の家庭環境が実際に読書のレディネスおよび想像力に影響を与えているのかについては検討されていない。また、ある家庭環境（読み聞かせ量など）が読書のレディネス・想像力に及ぼす影響は、他の家庭環境（図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ方など）や保育・教育施設環境（文字指導の程度など）によって異なると考えられる。

以上より、本研究の目的は、まず家庭における子どもに対する保護者の行動（読み聞かせ量など）の促進要因として、①保護者の読書好意度・読書量が子どもに対する保護者の行動に及ぼす影響を検討すること、次に読書のレディネスや想像力への影響について、②家庭環境が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響を長期的に検討すること、③ある家庭環境が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への他の家庭環境や保育・教育施設環境による調整効果を検討することとした。

本研究では、年中から年長児に対する読書のレディネスと想像力の面接調査、保護者に対する家庭環境の質問紙調査を、約半年ずつの期間をあけた3時点のパネル調査として行った。また、保育園・幼稚園に対して施設環境の質問紙調査も行った。その後、それぞれの影響関係を検討するために2時点のデータ（1時点目と2時点目、2時点目と3時点目、1時点目と3時点目）に対する重回帰分析を行ったところ、3つの分析に共通した結果は見られなかったが、主に以下の5点が示唆された。

第1に、保護者の読書好意度・読書量が多いほど、自宅の蔵書量が多くなるという影響や、幼児を図書館などへ連れて行く頻度が高くなるという影響を及ぼしていることが示された。

第2に、読書のレディネスを高める要因となりうるものとしては、図書館・本屋・本のイベントなどへ連れて行くこと、自宅の蔵書量、親子で旅行や遊びに行くことなどがあることが示された。一方で、読書のレディネスを低める要因となりうるものとしては、字を教えながら読むなどの物語を中断する必要のある読み聞かせ方などがあることが示された。

第3に、想像力を高める要因となりうるものとしては、絵本の読み聞かせ頻度・冊数、本屋へ連れて行く頻度などがあることが示された。想像力を低める要因となりうるものとしては、一緒にゲームなどをすることが示された。

第4に、1年間の影響関係においては、図書館などへ連れて行く頻度が高い群のほうが、家庭での絵本の読み聞かせが想像力により影響を与えることなどが示された。

第5に、幼児期前半では文字指導が熱心で一斉保育が多い施設のほうが、家庭での絵本の読み聞かせが読書のレディネスにより影響を与えるが、幼児期後半では自由保育の多い施設のほうが、家庭での絵本の読み聞かせが読書のレディネスにより影響を与えることが示された。想像力については、保育・教育施設環境の調整効果はみられなかった。

今後は、より多くの幼児を対象とした調査による結果の一般化を行うことと、小学生を対象に調査を行うことで、家庭環境と読書のレディネス・想像力の影響関係を検討していくことが望まれる。

研究指導教員：鈴木 佳苗
副研究指導教員：大庭 一郎